

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスソレイユ工房		
○保護者評価実施期間	2026年 6月 1日		～ 2026年 6月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20世帯	(回答者数) 14世帯
○従業者評価実施期間	2026年 6月 1日		～ 2026年 6月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 6月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 利用者一人ひとりの特性や気持ちに寄り添い、個々のペースを大切にした支援を行っている。 家庭や学校、関係機関との連携を積極的に行い、利用者が安心して過ごせる環境づくりに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者一人ひとりの特性や興味関心を把握し、「できた」「楽しい」と感じられる活動を取り入れることで、意欲や自己肯定感の向上につなげている。 日々の様子や成長の過程を職員間で共有し、支援の方向性を統一することで、継続性のある支援を心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者一人ひとりのニーズに応じた支援の質を高めるため、職員研修や事例検討の機会を充実させ、専門性の向上を図る。 保護者との情報共有や相談体制をより充実させ、ご家庭と連携した一貫性のある支援につなげる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の成長に合わせた柔軟な支援を行っている。 利用者や職員の関係性が良好で、安心して相談や挑戦ができる温かい雰囲気がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連絡や情報共有を丁寧に行い、ご家庭での様子や困りごとを支援に反映できるよう努めている。 制作活動や体験活動を通して、成功体験や達成感を積み重ねられる機会を意図的に設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源や関係機関との連携を強化し、社会体験や交流活動など、実践的な学びの機会を増やしていく。 利用者の将来を見据えた自立支援や進路支援を充実させ、生活力や社会性を育む活動を積極的に取り入れる。
3	<ul style="list-style-type: none"> 今後は利用者の将来を見据えた自立支援や社会参加に関する取り組みを強化する。 職員間の記録や情報共有方法をさらに整理し、支援の継続性や統一性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校や相談支援専門員など関係機関との連携を図り、利用者を多面的に支える体制づくりに努めている。 将来の自立や社会参加を見据え、買い物体験や公共交通機関の利用、地域交流など実践的な活動を取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援記録や情報共有の仕組みをさらに整備し、職員間で統一した支援が継続できる体制づくりを進める。 利用者の興味や発達段階に応じた活動内容を定期的に見直し、より魅力的で参加しやすいプログラムの充実を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 利用希望者の増加に対し、支援時間や活動スペースに制約があり、十分な受け入れが難しい場合がある。 職員によって経験や専門知識に差があり、支援の質にばらつきが生じることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数の増加や支援内容の多様化に伴い、活動スペースや設備面での制約が生じる場合がある。 学校や家庭、関係機関との連携機会は確保しているものの、情報共有の方法や頻度についてはさらに工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の興味や発達段階に応じた活動内容を定期的に見直し、主体的に参加できるプログラムを充実させる。 地域資源を活用した社会体験や交流活動の機会を増やし、将来の自立や社会参加につながる経験を積めるよう支援する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 地域との交流や社会参加の機会が限られており、活動の幅をさらに広げる余地がある。 保護者への情報発信や活動内容の周知について、さらに充実できる部分がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の将来を見据えた社会体験や地域交流を実施したいものの、実施場所や協力機関の確保、活動時間の調整が課題となっている。 支援の質向上に必要な研修機会を確保したいが、業務との両立や時間調整が難しい場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との情報共有をより充実させ、家庭での様子や課題を支援に反映できる体制を整える。 学校や相談支援事業所など関係機関との連携を強化し、一貫性のある支援につなげる。
3	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源や関係機関との連携を深め、社会体験や地域交流の機会を拡充する。 活動環境や備品の整備を継続的に行い、より安全で充実した支援環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理や感染症対策、防災対策など求められる役割が増えており、継続的な体制整備が必要となっている。 このような要因を踏まえ、職員の専門性向上、情報共有体制の強化、関係機関との連携充実、業務効率化を進めながら、より質の高い支援の提供を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理や防災対策について定期的な点検・訓練を実施し、利用者が安心して過ごせる環境整備を継続する。 職員間で互いの支援方法を学び合う機会を設け、経験や知識を共有しながら組織全体の支援力向上を目指す。